

## フローリング・パネリング施工上のご注意

- ✓ フローリングは十分に人工乾燥を行っています。含水率は輸送中や保管中にも変化しますので、必ず事前に現場の湿度に馴染ませてください。  
**但し、パイン材・杉材は温度で変形しやすい為、開梱後すぐ施工してください。**又、使用前の保管や施工時に商品が湿気の多い場所に長く置かれたり、雨などがかかかったりしないようにご注意ください。（後日、張り上げ面が持ち上がり、隙間が開いたりする原因になります。）
- ✓ 床材の施工に当たっては、床下の換気や下地材の品質と下地組みの適性が床鳴りや耐久性や仕上がりを左右しますので、防湿処理や乾燥木材を使用してください。
- ✓ 壁材を外部（軒天等）に使用される場合には、捨て張り板又は防水紙の上に乾いた胴縁を打ち、その上に化粧釘（又は隠し釘）を使用して張り上げを行ってください。
- ✓ 加工板は含水率の変化に応じて各々が膨張、収縮できるようにあまり強く締め付けしないでください。
- ✓ 釘は防錆性に優れ、保持力のあるもので仕上りに影響を及ぼさないものを選ぶことが大切です。

### ◆ 必ずお読みください。 → 無垢フローリングの保管・施工について

無垢フローリングは、空気中の水分を吸収、又は、放出する働きがあります。その結果として「膨張」「収縮」などを生じ、施工状況によっては不都合を引き起こす場合があります。より良い仕上がりにつなげるために、下記の要領に則って施工してください。なお、当製品は内装用です。基本的には外装には使用しないでください。

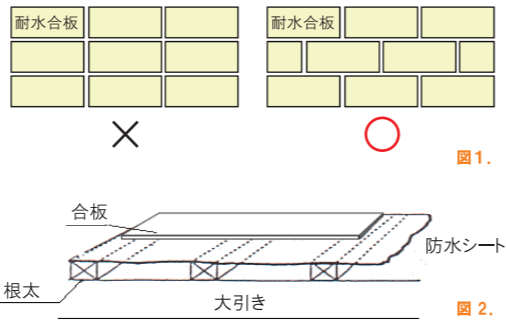
## ▶ 根太組み合板捨て張り工法

### 施工前に確認

- 雨の降りこみ等により、下地材が濡れた状態での施工はやめてください。反り・目隙・変形・床鳴り等の原因となります。
- 換気口は十分ですか。（建築基準法施工例：外壁の床壁部に、長さ5m以下毎に300cm<sup>2</sup>以上の換気口設置）  
※ 床下の換気が十分でない場合、施工後に「暴れ」「突き上げ」「床鳴り」が発生する恐れがあります。

## 01. 下地施工 根太工法（合板捨て張り工法）

- 大引きは90mm角以上の乾燥材を使用し、間隔は909mm(3尺)ピッチとしてください。
- 根太は45mm角以上の乾燥材を使用し、プレーナーで厚みを揃え303mmピッチで施工してください。  
※ 乾燥材の目安 含水率20%以下  
・乾燥材を使用しないと施工後根太が乾燥し、ねじれたり、痩せたりして踏み鳴りの原因となる場合があります。  
・根太の厚みが一定でないとい根太高に差が生じ、踏み鳴りの原因になります。
- 無垢フローリングの施工の際は、必ず厚さ12mm以上の耐水合板（タイプⅠ）を捨て張りしてください。耐水合板の施工は3尺ずらしとし、接合部に2mm程度の隙間を設けてください。（図 1. 参照）  
尚、床下の風通しを良くし湿気がこもらないようにしてください。  
湿気が多い場合は0.1mm厚以上の防水シートを根太と合板の間に敷き込んで施工してください。（図 2. 参照）
- 床上に重量物（ピアノ等）を置く場合は根太間隔を狭くするなどの地下の補強を行ってください。
- 新築時の基礎工事は、十分乾燥してからフローリング工事を行ってください。



## 02. 仮並べ 【根太工法・二重床工法／共通施工】

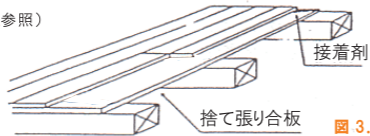
- 天然木の為、色合い、木目が同一のものはありません。施工後、色調、及び木目が偏りがないようにあらかじめ仮並べをしバランスよく施工してください。  
※ **万が一、極端に色柄、巾、厚みの異なったものがありましたら、施工前に弊社まで連絡くださいますようお願い致します。（施工後の商品の交換は出来かねますのでご了承ください。）**  
※ 無垢フローリングは合板基材の複合フローリングに比べ吸放湿による寸法変化が大きく、又施工時の気候、季節、地域差の影響もありますので、施工前に開梱し、施工場所の湿度に馴染ませてから施工してください。（但し、パイン材・杉材は温度で変形しやすい為、開梱後すぐ施工してください。）

## 03. 割付

- 下地合板のジョイント部と無垢フローリングのジョイント部が重ならないように割付をしてください。
- 無垢フローリングの木口部のジョイント部が根太上になるように割付をしてください。

## 04. 下地への固定

- 下地への固定は、ボンドと釘の併用とし、接着剤は一液性ウレタンボンドをご使用ください。（図 3.参照）  
※ 接着剤は、実部分につかないよう床板裏面全体に塗布してください。



## 05. 下地への固定 【根太工法・二重床工法／共通施工】

### 一 釘打ち施工の場合

- 無垢フローリングの雄実部に直接釘打ちすると、実部が欠けたり、割れたりする場合がありますので、予めドリルで直径2mm程度の導き孔を開けてから釘打ちしてください。（割れたまま施工すると踏み鳴りが生じる場合がありますので、十分注意してください。）

- 釘打ち部の下地合板上に接着剤を塗布し、雄実に38mm以上の長さのフローア用スクリューネイルを使用し、45度の角度で打ち付けてください。  
下地合板を通して根太に303mmピッチで打ち固定してください。（極端に角度がずれると、割れたり、打ち込み不良になりますので、十分に注意して施工してください。）

- 釘頭はボンチで雄実に締め付けてください。（図 4.参照）

- 無垢フローリングの場合、樹種毎の硬度も様々ですし、又同一樹種でも硬さにバラツキがありますのでエアークの調整は十分に行ってください。

- ※ 樹種によっては使用できない場合があります。その際はフローア用スクリューネイルでの釘打ち工法をお願いします。
- ① サネは強く叩き込みすぎないようにしてください。膨張時の反りを防ぐため、名刺1枚分程度の隙間を設けてください。
- ② 壁際は突き付け施工はせず、必ず5～10mm程度の隙間を設けてください。（図 5.参照）  
※ 周辺部の納めは必ず隙間を設けるか、コーキング処理をしてください。  
吸湿時に無垢フローリングが膨張して不具合が生じますので厳守願います。（図 6.参照）

- 施工終了後は必ず養生してください。養生シート、弱粘性養生テープをご使用ください。

- ※ 高温・高温の現場では、粘着度の極めて低い養生テープを使って頂いても表面剥離を起こす場合がありますので、フローリングの表面には直接貼らないでください。養生テープは、巾木ないし壁に止めてください。フローリング表面に直接貼ると塗装の剥がれの原因になる場合がございます。特に夏場は注意してください。養生前にごみをきれいに取り除いてください。また、養生中もテープの剥がれがないか都度確認してください。隙間から小石やゴミ等が入ると、表面のキズやへこみの原因になります。

- 万が一、商品に不良がある場合は、フローリングを張る前に弊社までご連絡ください。フローリング施工後の商品交換は出来かねますのでご了承ください。

## フローリング・パネリング施工上のご注意

- ✓ フローリングは十分に人工乾燥を行っています。含水率は輸送中や保管中にも変化しますので、必ず事前に現場の湿度に馴染ませてください。  
**但し、パイン材・杉材は温度で変形しやすい為、開梱後すぐ施工してください。**又、使用前の保管や施工時に商品が湿気の多い場所に長く置かれたり、雨などがかかかったりしないようにご注意ください。（後日、張り上げ面が持ち上がり、隙間が開いたりする原因になります。）
- ✓ 床材の施工に当たっては、床下の換気や下地材の品質と下地組みの適性が床鳴りや耐久性や仕上がりを左右しますので、防湿処理や乾燥木材を使用してください。
- ✓ 壁材を外部（軒天等）に使用される場合には、捨て張り板又は防水紙の上に乾いた胴縁を打ち、その上に化粧釘（又は隠し釘）を使用して張り上げを行ってください。
- ✓ 加工板は含水率の変化に応じて各々が膨張、収縮できるようにあまり強く締め付けしないでください。
- ✓ 釘は防錆性に優れ、保持力のあるもので仕上りに影響を及ぼさないものを選ぶことが大切です。

### ◆ 必ずお読みください。 → 無垢フローリングの保管・施工について

無垢フローリングは、空気中の水分を吸収、又は、放出する働きがあります。その結果として「膨張」「収縮」などを生じ、施工状況によっては不都合を引き起こす場合があります。より良い仕上がりにつなげるために、下記の要領に則って施工してください。なお、当製品は内装用です。基本的には外装には使用しないでください。

## ▶ 二重床工法

### 施工前に確認

- フローリングを施工する前の状態において、床鳴りがしないことを確認してください。
- 下地合板と、その周辺部に張る合板は、耐水合板（タイプⅠ）を使用してください。
- 換気口は十分ですか。（建築基準法施工例：外壁の床壁部に、長さ5m以下毎に300cm<sup>2</sup>以上の換気口設置）  
※ 床下の換気が十分でない場合、施工後に「暴れ」「突き上げ」「床鳴り」が発生する恐れがあります。

## 01. 下地施工 二重床工法（合板捨て貼り工法）

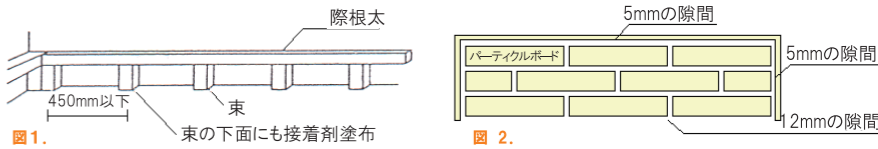
地下の施工はメーカーの施工説明書にそって正しく施工してください。

- 床コンクリート打設後、3週間以上の養生期間をとってください。養生期間が短いとコンクリートの水分でトラブルの発生原因となります。（床の波うち、盛り上がり）

- ※ 特に冬場はコンクリートスラブの乾燥が遅くなりますので、4週間以上の養生が必要となります。十分注意してください。含水率10%以下

- 際根太をしっかり固定してください。（図 1.参照）

- パーティクルボードの割付は必ず3尺ずらしにしてください。  
※ 壁は5mm 程度の隙間、ボードのジョイント間は12mmの隙間（図 2.参照）



- 捨て張り合板（12mm以上）はベースパネル（パーティクルボード）の長さと同じ直交するように施工し、かつベースパネルのジョイントと捨て張り合板のジョイントは100mm以上離して割付してください。釘は300mm以下の隙間で施工してください。釘はベースパネル下面に貫通すると、床下配管を破損する恐れがありますので30mm長さ程度のボード釘を使用してください。

- ※ 遮音下地を使用する場合は、支持脚の沈み量大きい為、床鳴りしますので接着剤（直貼りボンド）を併用してください。

## 02. 仮並べ 【根太工法・二重床工法／共通施工】

- 天然木の為、色合い、木目が同一のものはありません。施工後、色調、及び木目が偏りがないようにあらかじめ仮並べをしバランスよく施工してください。

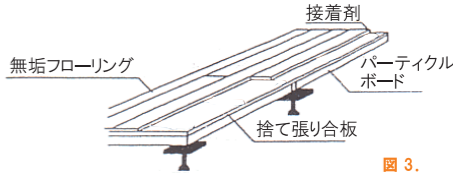
- ※ **万が一、極端に色柄、巾、厚みの異なったものがありましたら、施工前に弊社まで連絡くださいますようお願い致します。（施工後の商品の交換は出来かねますのでご了承ください。）**  
※ 無垢フローリングは合板基材の複合フローリングに比べ吸放湿による寸法変化が大きく、又施工時の気候、季節、地域差の影響もありますので、施工前に開梱し、施工場所の湿度に馴染ませてから施工してください。（但し、パイン材・杉材は温度で変形しやすい為、開梱後すぐ施工してください。）

## 03. 割付

- 下地合板のジョイント部と無垢フローリングのジョイント部が重ならないように割付をしてください。

## 04. 下地への固定

- 下地への固定は、ボンドと釘の併用とし、接着剤は一液性ウレタンボンドをご使用ください。（図 3.参照）  
※ 接着剤は、実部分につかないよう床板裏面全体に塗布してください。



## 05. 下地への固定 【根太工法・二重床工法／共通施工】

### 一 釘打ち施工の場合

- 無垢フローリングの雄実部に直接釘打ちすると、実部が欠けたり、割れたりする場合がありますので、予めドリルで直径2mm程度の導き孔を開けてから釘打ちしてください。（割れたまま施工すると踏み鳴りが生じる場合がありますので、十分注意してください。）

- 釘打ち部の下地合板上に接着剤を塗布し、雄実に38mm以上の長さのフローア用スクリューネイルを使用し、45度の角度で打ち付けてください。  
下地合板を通して根太に303mmピッチで打ち固定してください。（極端に角度がずれると、割れたり、打ち込み不良になりますので、十分に注意して施工してください。）

- 釘頭はボンチで雄実に締め付けてください。（図 4.参照）

- 無垢フローリングの場合、樹種毎の硬度も様々ですし、又同一樹種でも硬さにバラツキがありますのでエアークの調整は十分に行ってください。

- ※ 樹種によっては使用できない場合があります。その際はフローア用スクリューネイルでの釘打ち工法をお願いします。
- ① サネは強く叩き込みすぎないようにしてください。膨張時の反りを防ぐため、名刺1枚分程度の隙間を設けてください。
- ② 壁際は突き付け施工はせず、必ず5～10mm程度の隙間を設けてください。（図 5.参照）  
※ 周辺部の納めは必ず隙間を設けるか、コーキング処理をしてください。  
吸湿時に無垢フローリングが膨張して不具合が生じますので厳守願います。（図 6.参照）

- 施工終了後は必ず養生してください。養生シート、弱粘性養生テープをご使用ください。

- ※ 高温・高温の現場では、粘着度の極めて低い養生テープを使って頂いても表面剥離を起こす場合がありますので、フローリングの表面には直接貼らないでください。養生テープは、巾木ないし壁に止めてください。フローリング表面に直接貼ると塗装の剥がれの原因になる場合がございます。特に夏場は注意してください。養生前にごみをきれいに取り除いてください。また、養生中もテープの剥がれがないか都度確認してください。隙間から小石やゴミ等が入ると、表面のキズやへこみの原因になります。

- 万が一、商品に不良がある場合は、フローリングを張る前に弊社までご連絡ください。フローリング施工後の商品交換は出来かねますのでご了承ください。

### ！ 保管上の注意

- 水がかかりやすい箇所、湿気の強い箇所、直射日光の当たる場所での保管は避けてください。
- 保管には、水平な場所に同じ高さの3本以上のリングを置いて水平に保管してください。

### ！ 保管上の注意

- 水がかかりやすい箇所、湿気の強い箇所、直射日光の当たる場所での保管は避けてください。
- 保管には、水平な場所に同じ高さの3本以上のリングを置いて水平に保管してください。

施工前に必ずお読みください。

# 床材・無垢フローリング施工上の注意点

無垢フローリングは天然木の性質上、保管状況、使用環境によって、反り、割れ、捻りを起こす場合があります。また、空気中の水分、床下からの湿度の影響で「膨張」「収縮」などが生じ施工状況によっては、不都合を引き起こす場合があります。お施主様の快適な暮らしのために、保管、施工及びメンテナンスには必ずこの注意事項をよくお読み頂き、無垢材の特徴をよくご理解の上、施工してください。

## 保管上の注意

- 水がかかりやすい場所、湿気の強い場所、直射日光の当たる場所での保管は避けてください。
- 保管には、水平な場所に同じ高さのリングを置いて水平に保管してください。
- シュリンク梱包の商品は紫外線等で商品が焼けますので必ずビニールシートなどで覆ってください。

## 施工前に確認

- 広葉樹は天然木の性質上、膨張、収縮が起きるのを防ぐために必ず開梱した状態で放置し、施工現場の環境に十分馴染ませてください。
- 針葉樹は性質上、開梱後長時間放置しますと、施工現場の環境により反り、割れ、捻り等発生する場合がありますので、ご注意ください。
- 当製品は内装用ですので、外装使用にはご遠慮ください。
- 床暖房には、当社推奨の床暖房用フローリングをご使用ください。
- 換気口は充分か確認ください。床下の換気が充分でない場合は、施工後に「暴れ」「突き上げ」「床鳴り」等発生する場合があります。
- 雨の降りこみなどにより下地材が濡れたり、施工後の床材が濡れたりせぬようサッシ部分等開口部の取り付け後に施工してください。

## 下地施工

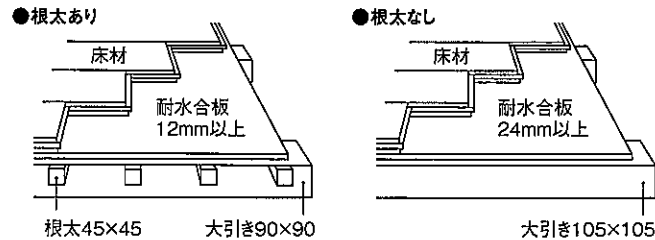
### 根太有り

- 大引きは90mm 角以上、根太は45mm 角以上の乾燥材を使用し、プレーナーで平滑に仕上げてください。
- 大引き間隔は3尺(909mm)、根太は1尺(303mm)とし、レベル(水平)を出して施工してください。
- ※乾燥材を使用しないと施工後振れたり、痩せたりして踏みなりの原因となります。
- ※根太の厚みが一定でないと根太高に差が生じ、踏みなりの原因となります。

- 必ず合板の捨て貼りをし、合板は12mm以上の耐水合板を使用してください。また、捨て貼り合板同士の間は2~3mmあけて施工してください。
- 床下の湿気が多い場合は、0.1mm厚以上の防湿シートを根太と捨て貼り合板の間にしき込んで施工するか、もしくはつなぎ目の部分にコーキングをして、テーピングをし床下からの湿気を防いでください。
- ※床下のコンクリートは表面が乾いていても、内部には水分を含んでおりますので御注意ください。

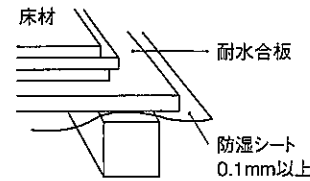
### 根太なし

- 大引きは105mm角以上の乾燥材を使用し、プレーナーで平滑に仕上げてください。
- 大引き間隔は3尺(909mm)とし、レベル(水平)を出して施工してください。
- 必ず24mm以上の耐水合板を使用してください。
- 床下の湿気が多い場合は、0.1mm厚以上の防湿シートを根太と捨て貼り合板の間にしき込んで施工するか、もしくはつなぎ目の部分にコーキングをして、テーピングをして床下からの湿気を防いでください。



### 防湿処理

フローリングの膨らみを防ぐため、床下のコンクリートは含水率10%以下になるまで十分に乾燥させ、風通しを良くしてください。また、必ず耐水合板の下に防湿シートをしき込んでください。さらに、下地合板が湿気を含んでいないことを確認してください。



## 仮並べ

- 天然木ですので、色合い、木目など一枚一枚異なります。貼り始める前に仮並べをし、色合い、木柄のバランスを確認し、また一枚一枚加工不良や傷がないか、塗装品の場合は塗装ムラがないか品質を確認いただいた上で施工してください。
- ※加工不良、塗装不良などお気づきの点があれば、貼らずにご相談ください。
- ※針葉樹の場合多少の欠点(ヤニ筋、ヤニツボ、死節、黒節、節割れ、欠け、軽微な割れなど)が含まれる可能性があります。

## 割り付け

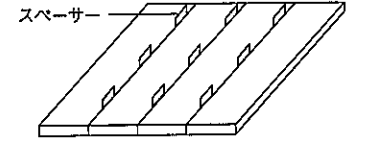
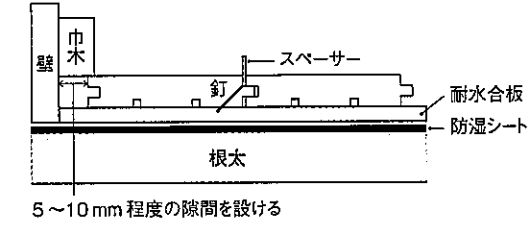
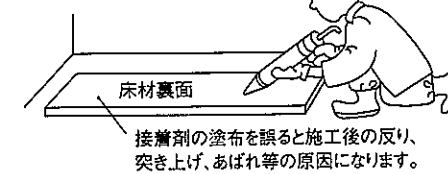
- 極端に小幅材がこないよう、貼り込み前に割り付けを行ってください。
- 下地合板のジョイント部とフローリングのジョイント部が重ならないようにしてください。

## 貼り込み

### 広葉樹フローリング

- 施工は必ず接着剤とフロア用ステーブルの併用で行ってください。接着剤はF☆☆☆☆認定の1液型ウレタン樹脂系を使用してください。※関連推奨接着剤:(株)オーシカ セレクティ UR-20、UR-21
- 水溶性接着剤は床鳴りの原因となるため、使用しないでください。
- サネやその近隣部には接着剤を使用しないでください。
- サネを強く叩き込み過ぎますと、無垢材の性質上、反り、突き上げの原因となります。必ず「スペーサー」を使ってジョイント部にクリアランスを取ってください。また壁際は5~10mm程度隙間をあけてください。

◆専用接着剤を床材裏面に塗布(広葉樹フローリングは必須)



### 針葉樹フローリング

- オスザネをメスザネにさし込み、隙間を設けずに貼り上げてください。
- 接着剤を併用される場合F☆☆☆☆認定の1液型ウレタン樹脂系を使用してください。

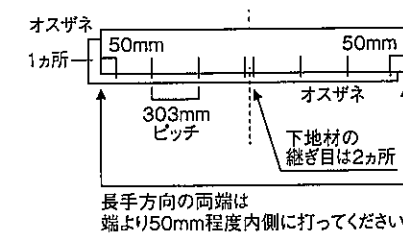
### 床暖房用フローリング

- オスザネをメスザネにしっかりさし込み、隙間を設けずに貼り上げてください。
- 切り使いのある場合、切断した小口面にウレタン系樹脂塗料を塗布していただきますと「収縮」「膨張」の軽減になります。
- 床暖房使用中に水分が放出して収縮し1~2mm程度の隙間が生じることがありますが、夏の休止時には吸湿して膨張し、ある程度目立たなくなります。
- ※床暖の設定温度や使用時間によっては低温やけどする場合がありますので、十分ご注意ください。

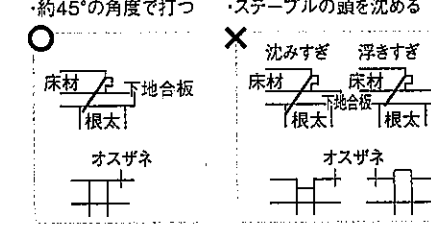
## フロア用ステーブルで固定

### 一般用

◆フロア用ステーブルを打つ箇所

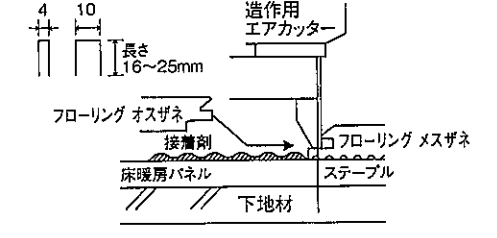


◆フロア用ステーブルの打ち方



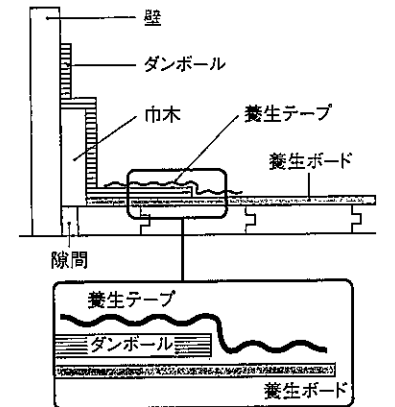
### 床暖房用

ステーブルサイズ



## 養生

- 施工後はすみやかに、ごみをきれいに取り除いて、細かいチリなど完全に除去してください。床材表面に細かい傷ができるのを防ぎます。きれいに掃除をしたあと、表面保護のために養生シート、または養生ボードにて全面を覆ってください。
- ※養生テープを直接無垢フローリングに貼らないで下さい。粘着テープによって塗装がはがれたり、粘着剤が材に付着し汚れや変色の原因となる場合があります。又、木目に石膏ボードの粉がはいらないよう注意してください。
- 壁面が立ち上がりましたら、商品のダンボールなどを利用して、壁面に養生テープを貼ってください。※右図を参考にしてください。
- 養生テープをやむをえずフローリングに直接貼る場合は、粘着力の弱いものを使用し、できるだけ短期間にはがしてください。
- ※天然木のフローリングは施工後も呼吸をしています。工事期間中の養生後は非常に厳しい環境の中におります。お引渡しの前に傷、反り、突き上げのないよう正しい施工を心がけましょう。



## ■ 床暖房対応フローリングの施工について

### 施工方法

- ・ 床暖房器具を使用される場合は必ず床暖房対応フローリングを使用してください。
- ・ 床暖房を施工するときの接着剤は、必ず床暖房対応接着剤を使用してください。( 床鳴りを防ぐため)
- ・ 床暖房対応フローリングは、通常フローリングに対して乾燥工程を増やし4～5%までの含水率に仕上げた商品です。ただし非床暖対応フローリングとの違いは含水率と塗装方法なので、取扱いに注意が必要です。必ず床暖房システムのメーカーの施工指示書に従い注意して施工してください。以下に代表的な施工例で説明します。

#### 小根太入り温水マットタイプ

- ・ 床材は、マットに配置された小根太と直行するように施工します。
- ・ 床暖房器具の周辺部には、同厚のダミー合板を糊釘併用で設置してください。

#### 根太間落とし込みタイプ

- ・ 床暖房パネルは、同厚の小根太を糊釘併用で施工し、その間に設置します。
- ・ 床暖房器具の周辺部には、同厚のダミー合板を糊釘併用で設置してください。

#### ハードパネルタイプ

- ・ 床材は、パネルに配置された温水パイプもしくは電熱線と直行するように施工します。
- ・ 釘打ちは、その温水パイプもしくは電熱線を避けた位置で行ってください。
- ・ 床暖房器具の周辺部には、同厚のダミー合板を糊釘併用で設置してください。
- ・ 床暖房の効き目は悪くなりますが、床暖房器具の上に耐水合板を1枚敷き、その上にフローリングを施工して下さい。  
※ボンドの設置面積を増やすため

施工上および施工後の注意は、[\[床材・無垢フローリング施工上の注意\]](#)をご確認ください。

## ■ 三層フローリングの施工について

### 施工方法

三層フローリングとは、厚みに対して、三層の構造(表層、中間層、下層)の積層によって作られたフローリングです。中間層は一般的には針葉樹を直交方向に入れサネの役目を持たせております。

一般的な無垢フローリングに比べると、伸び縮みはかなり少なく、無垢材では反り・捻じれ等の現象が起こる為、商品化出来なかったワイド幅をラインナップする事が可能となっております。

伸び縮みが少ない為、スペーサーを入れる必要はありませんが、サネの貼り合わせは多少緩めで施工してください。また、現場によって、広い面積に貼る場合は室内の隅(巾木下)等クリアランスが取れるところは出来るだけ取るように調整して下さい。なお本商品は低温床暖対応商品となっております。ただし、床表面温度は28℃以下とし、電気パネル式床暖等のパネル温度は40℃以下で設定して下さい。温度の上げ過ぎはフローリングの収縮、フレ、反りなどの原因となりますので御注意下さい。

施工上および施工後の注意は、[\[床材・無垢フローリング施工上の注意\]](#)をご確認ください。

## ■ ワイドフローリングの施工について

### 施工方法

90mm巾以上のワイドフローリングは90mm巾以下のフローリングに比べ、どうしても伸縮率が大きくなってしまう傾向にあります。厚みを一般的な15mmよりも厚くとした物であれば、それと比例して巾を広くとっても伸縮率はあまり変わりませんが、15mm厚では90mm巾を超えると施工時のクリアランスの取り方にも配慮が必要です。通常のフローリングより多めにクリアランスを確保し充分注意して施工してください。

施工上および施工後の注意は、[\[床材・無垢フローリング施工上の注意\]](#)をご確認ください。

## ■ ヘリンボーンフローリングの施工について

### 施工方法

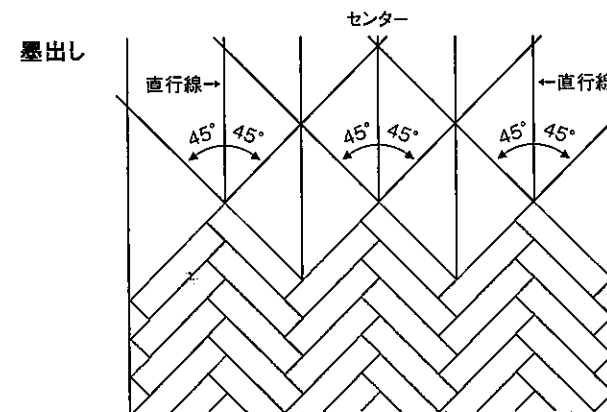
#### 施工前の注意

- 1 合板接合部の目違い、合板の貼り込みが合っているか確かめ、表面を掃き掃除して下さい。
- 2 実際の施工前に、接着剤を塗布していない床に仮並べて確認します。

#### 施工上の注意

- 1 ヘリンボーンフローリングは長手方向にオスザネ、メスザネがありますが、エンド部分はオスザネがありません。(すべてメスザネとなります。) そのためメスザネ同士で突き付けになる部分が出てきます。気になる方は合板などで「雇いザネ」を作って入れるようにして下さい。
- 2 ヘリンボーンフローリングは墨出しをした部分だけフローリング用ステーブル釘と接着剤で止め、その他の部分は2液性のエポキシボンドで接着工法にて施工して下さい。この際、ウレタンボンドを使わずに必ずエポキシボンドを基準線以外全面に塗布して下さい。全体をステーブル釘と接着剤にて施工する場合はウレタンボンドでも可能です。なお、エポキシボンドの場合はオープニングタイムを必ず守り、混ぜた後15～20分以内に必ず接着して下さい。
- 3 接着工法で施工した箇所は、施工直後にすぐにウェイト(重し)を1日置いて、下地材と床材の間の空気を完全に抜くようにして下さい。ウェイトを置かないと突き上げ事故の原因となります。接着工法の場合は下地のごくわずかな不陸が床材の段差等になって現れますので、下地を水平にして下さい。
- 4 施工後、高温になったり湿度が高い状態になる可能性が有る場合は、0.3mm程度の隙間を設けて下さい。
- 5 ヘリンボーンは墨出しを行う時、45度線と直行線の両方を下地に付けた方が便利です。
- 6 ヘリンボーンは壁面の長さを測り、そのセンターから墨出しし、左右の壁面との納まりが均等になるように割り付けられることをお勧めします。
- 7 床の面積や形状にもよりますが、壁際等斜めに切断割り当て施工されるため、数量は床面積より多めに必要となる場合もございます。
- 8 壁際は巾木で隠れる程度の隙間を設けて下さい。

施工上および施工後の注意は、[\[床材・無垢フローリング施工上の注意\]](#)をご確認ください。



## ■ 竹フローリングの施工について

### 施工方法

#### 施工上の注意

- 1 竹フローリングの性質上、膨張・収縮が起きるのを防ぐために必ず開梱した状態で放置し、施工現場の環境に十分馴染ませて下さい。竹の特性上しなりのある物もありますが、製品品質、施工上問題はありません。
- 2 竹フローリングは、色合いなど一枚一枚異なります。貼り始める前に仮並べをし、色合い・柄のバランスを確認し、又、一枚一枚加工不良・傷がないか、塗装品の場合、塗装ムラがないか品質を確認いただいた上で施工してください。
- 3 加工不良・塗装不良などお気づきの点があれば、貼らずにご相談ください。

施工上および施工後の注意は、[\[床材・無垢フローリング施工上の注意\]](#)をご確認ください。

#### クレーム対応

無垢フローリングは天然木の為、多少の不具合が生じる場合がございます。施工される前に万が一不具合がありましたら、ただちに商品交換返品で対応させて頂きます。なお、施工後の商品につきましては交換返品品の対応は出来かねますので、必ず施工上の注意点をよくお読み頂き施工されます様をお願いします。